

① 基本事項	計画コード		22077		事業名		学力向上推進事業						評価分類		A1				
	事業手法		☒ 直営 ☐ 一部委託 ☐ 全部委託 ☐ 補助等 ☐ その他()																
	施策体系	施策の大綱		04:子育てと子どもの成長を支える環境の充実					予算科目	会計		01:一般会計					担当部署		
		基本施策		01:子どもたちの豊かな学びと成長を支える環境の充実						款		10:教育費							
		施策の方向		03:希望をもって新しい時代に活躍できる子どもの育成						項		08:教育研究費					部	教育委員会事務局	
		重点プロジェクト		04:「未来へのトビラ」プロジェクト						目		01:教育研究費							
	事業期間		H 27 年度 ~ R - 年度			主な根拠法令等		第3期教育振興基本計画									課	教育推進課 支援推進G	

②事業概要（P）	事業の必要性(経緯・背景等)	事業の対象(誰に、何に対して)	事業の目的(どのような状態にしたいのか)	事業の内容(どのような取組を行うのか)
	全国学力・学習状況調査等によって明らかになった「わかったことや考えたことなどをまとめて表現する」等の課題を解決し、児童生徒一人ひとりの学力向上を図るため、「亀山市学校教育ビジョン」「亀山市学力向上推進計画」に基づいた取組を推進する必要がある。	小学校及び中学校の児童・生徒・教員	教職員の指導力の向上と授業改善を行い、児童生徒の学力の向上と定着を図る。また、中学校への運動部支援員を派遣し、教職員の授業準備や研修の時間を確保する。	教職員への各種研修会の開催のほか、国語科共通テストや「かめやまっ子チャレンジ」を実施し、教職員の指導力向上と児童生徒の学力向上を図る。また、中学校へ運動部活動支援員を派遣し、教職員の負担軽減を図る。さらに、「学力向上推進計画」の改訂を行う。

③事業の実施状況（P・D）

年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	
事業計画		○教職員への各種研修会の開催 ○国語科共通テスト等の実施 ○運動部活動支援員の派遣 ○学力向上推進計画【第4版】の策定		○教職員への各種研修会の開催 ○国語科共通テスト等の実施 ○運動部活動支援員の派遣		○教職員への各種研修会の開催 ○国語科共通テスト等の実施 ○運動部活動支援員の派遣		○教職員への各種研修会の開催 ○国語科共通テスト等の実施 ○運動部活動支援員の派遣 ○学力向上推進計画【第5版】の策定	
活動実績 (計画通り実施できたか)		教職員への学力向上研修会を2回開催した。国語科共通テストについて小3～小6の単元ごとに共通テストを作成し、各校当該学年で実施した。(年20回程度)運動部活動支援員として5名の登録があり、累計268回実施した。学力向上推進計画【第4版】の策定を完了した。		学力向上推進計画第4版の取組を進めた。説明動画等を作成し、全教職員が5月末までに各校研修会で視聴した。教職経験の浅い教職員が主体的に研修を行う機会を年間6回行った。国語科共通テストについて小3～小6の単元ごとに「読む・読み取る力」に重点を置いた共通テストを作成した。(年20回程度)運動部活動支援員は、5名の登録があり、累計395回実施した。		学力向上推進計画第4版の取組を進め、担当者会やステップアップ研修会等で説明・周知を図った。教職経験の浅い教職員が主体的に研修を行う機会を年間4回設けた。小3～小6の単元ごとに「読む・読み取る力」に重点を置いた共通テストを作成し、年間約20回実施した。運動部活動支援員は5名を登録し、累計313回の支援を実施した。		学力向上推進計画第4版の取り組みを進めた。担当者会やステップアップ研修会等の機会を通して説明し、周知を図った。また、中学校教員を対象に学習評価に関する研修を実施し、授業改善につなげた。さらに、小学校3～6年生については、単元ごとに「読む・読み取る力」に重点を置いた共通テストを作成し、年20回程度実施した。加えて、運動部活動支援員は5名が登録し、累計312回の支援を実施した。	
計画額	事業費	2,000千円		1,630千円		1,800千円		1,800千円	
		国・県支出金		0千円					
		地方債		0千円					
		その他		0千円					
		一般財源		2,000千円		1,800千円		1,800千円	
決算額	事業費	1,266千円		1,549千円		1,228千円		1,191千円	
		国・県支出金		0千円		0千円		0千円	
		地方債		0千円		0千円		0千円	
		その他		0千円		0千円		0千円	
		一般財源		1,266千円		1,549千円		1,228千円	
①期間内計画額(R4-7)		8,000千円		②期間外計画額(R8-)		-		①+②総計画額	
								8,000千円	

前年度からの繰越額	0千円
当年度の最終予算額	1,528千円
次年度への繰越額	0千円

⑤ 成 果 （ C ）	判定	事業実施により得られた成果（誰に（何に）対してどのような効果があったか
	B	「全国学力・学習状況調査」の正答率と授業理解度の結果を踏まえ、学力向上研修会を開催したことで、特に中学校教員に対する指導力の向上と授業改善につながった。また、「全国学力・学習状況調査」と「みえスタディチェック」の結果を分析し、各校の「学力向上推進計画」の見直しを進めるとともに、取組シートによる報告を2回実施したことにより、各校で授業改善のための具体的な取り組みにつながった。
	まずまず成果を得た	

事業の対象	事業の目的
小学校及び中学校の児童・生徒・教員	教職員の指導力の向上と授業改善を行い、児童生徒の学力の向上と定着を図る。また、中学校への運動部支援員を派遣し、教職員の授業準備や研修の時間を確保する。

⑥ 課 題 （ ○ ）	事業の達成状況等を踏まえた課題事項
	学力向上研修会やステップアップ研修会等の開催は、今後の教員の指導力向上につながるものとして継続して実施していく必要がある。児童生徒の学習課題を明確にして、重点的な取り組みを進めるために、児童生徒の個別最適な学びに対応した学習教材も活用した学力向上に関わる計画を策定する必要がある。

⑦事業の展開（Ａ）	方向性	
	標準事業に移行	今後の事業内容や規模等を踏まえ、標準事業に移行する。
	改善・見直し内容	
	令和8年度で対応する(した)もの 学力向上強化週間として「Kameyama Study Week」を継続実施する。児童生徒の学習課題を明確にした「亀山市「学びのスイッチ」プラン」を策定する。児童生徒の個別最適な学びに対応したAI型学習教材(キュビナ)を導入する。	令和9年度以降で対応するもの 令和8年度の実施状況を鑑み、必要に応じて教職員の指導力向上及び授業改善に向けた措置を講じていく。

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
成果判定	A	B	B	B
事業展開	継続(現状維持)	継続(現状維持)	継続(現状維持)	標準事業に移行

1次評価者	教育委員会事務局 教育推進課 支援推進GL 北川 恵美子
最終評価者	教育委員会事務局 教育推進課長 谷 伸